

シンポジウム「相互研修型FDの組織化をめぐる」

司会 大塚 雄 作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

松下 佳 代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

(大塚) それでは、後半の部を進めてまいりたいと思います。先ほど特色 GP「相互研修型FDの組織化による教育改善」を中心に、京都大学の取り組みの報告をいたしました。それを受けて、評価コメントという形で4名の先生方にFDの問題を掘り下げていただこうと思います。

まず、4人の先生方をご紹介します。プログラムには絹川正吉先生から書かれていますが、元国際基督教大学学長で、私からご紹介するまでもなく、みなさんご存じだと思いますが、絹川先生は特色 GP 実施委員会の委員長をされているということもありまして、最後に総括という形で評価コメントを頂こうと思います。

今日は最初に、東京大学名誉教授の天野郁夫先生からコメントを頂こうと思っています。天野先生も、今更、私からご紹介するまでもないと思いますが、高等教育学会の初代の会長でもあり、高等教育研究の先端を走っておられます。また、私どもセンターは1999年に外部評価をやっておりますが、そのときの外部評価の委員長でいらっしゃいます。私もそのときは、外部評価の委員として参加しておりましたが、そのような経緯もありますので、特色 GP の現在の活動を、そのときの経験も踏まえて、高等教育の全体像に照らしながらコメントを頂けるのではないかと考えています。

続いて、東北大学の高等教育開発推進センター高等教育開発部長の関内隆先生です。関内先生は、京大と同じようなセンターにおられますし、また、東北大学でも特色 GP などに取り組んでおられますので、そのような比較も含めてコメントを頂けるのではないかと考えています。

3番目に、千葉大学の国際教育センター長の山内正平先生にコメントを頂きます。山内先生は、所属は園芸学部であり、また、普遍教育などにもかかわっておられます。それから、かつては八王子セミナーハウスなどで、FD関係のセミナーなども担当されていたご経験をお持ちです。

天野先生は紹介するまでもなく、『試験の社会史』というご本が有名です。また、関内先生は社会経済史・西洋史がご専門で、山内先生は園芸学部で、環境文化史を担当されておまして、お三方はいずれも歴史にかかわっている部分があります。絹川先生は、もちろんご存じのとおり数学がご専門ですが、娘さんが科学史を専攻されているということで、あまり関係ありませんが(笑)、振り返ることのプロの先生方に今日はそろっていただいております。

それでは早速、天野郁夫先生からお話をいただきたいと思います。